

平成29年9月

県内企業の景況意識調査

(第162回)

共同調査

大銀経済経営研究所

大分信用金庫

大分県産業創造機構

* 2017年 7～9月期〈Ⅲ期〉の実績見込み

* 2017年 10～12月期〈Ⅳ期〉の見通し

2期ぶりに悪化するも来期は改善見通し

今期（2017年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、前期比6.7ポイント低下の▲11.7となった。業種別では、『鉱業』『建設業』『金融・不動産業』『運輸業』の4業種で改善する一方、『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の3業種で悪化した。『サービス業』の悪化幅がとくに大きく、観光関連企業を中心に九州北部豪雨の影響を受けたものとみられる。

来期（2017年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、今期比14.5ポイント上昇の+2.8と、プラス水準となる見通しである。業種別では、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善する見通しである。

今期の業況判断BSIは2期ぶりの悪化となったものの、県内経済が持ち直し基調にあることや、観光面では九州北部豪雨発生直後の落ち込みからの回復が予想されることなどから、来期の業況判断BSIはプラス水準に改善する見通しである。

製造業……………悪化が続くも改善の見通し

卸・小売業……………卸売業は悪化するも、小売業は改善

建設業……………3期連続のプラス水準

サービス業……………2期ぶりに悪化

2期ぶりに悪化するも来期は改善見通し

◎業況判断

【今期】 今期（2017年7～9月期〈Ⅲ期〉）の業況判断BSIは、前期比6.7ポイント低下の▲11.7となった。前回調査における2017年Ⅲ期の見通し（▲2.3）と比較すると、9.4ポイントの下方修正となった。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比0.5ポイント減の11.7%、「悪くなった」は同6.2ポイント増の23.4%、「変わらない」は同5.6ポイント減の65.0%となった。

業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『サービス業』の3業種で悪化した。とくに『サービス業』の悪化幅が大きく、観光関連企業を中心に九州北部豪雨の影響を受けたものとみられる。

【来期】 来期（2017年10～12月期〈Ⅳ期〉）の業況判断BSIは、今期比14.5ポイント上昇の+2.8と、プラス水準となる見通しである。

BSIの内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比4.7ポイント増の16.4%、「悪くなる」は同9.8ポイント減の13.6%、「変わらない」は同5.1ポイント増の70.1%となる見通しである。

業種別のBSIは、『製造業』『卸・小売業』『運輸業』『サービス業』の4業種で改善する見通しである。なお、『金融・不動産業』は今期と同水準となる見通しである。

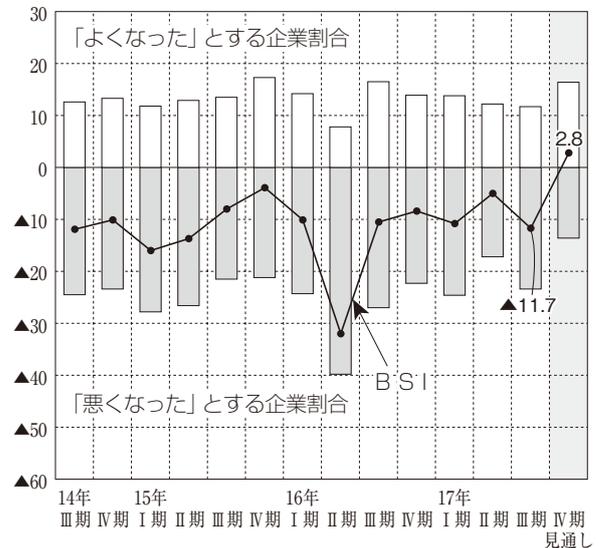
今期の業況判断BSIは2期ぶりの悪化となったものの、県内経済が持ち直し基調にあることや、観光面では九州北部豪雨発生直後の落ち込みからの回復が予想されることなどから、来期の業況判断BSIはプラス水準に改善する見通しである。

◎売上高と収益

【今期】 売上高BSIは前期比0.4ポイント低下の▲7.2となった。収益BSIは同3.5ポイント上昇の▲5.7と改善した。業種別にみると、売上高BSIは『建設業』『運輸業』『サービス業』の3業種で悪化した。また、収益BSIは『運輸業』『サービス業』を除く5業種で改善した。

【来期】 売上高BSIは今期比13.5ポイント上昇の+6.3、収益BSIは同6.6ポイント上昇の+0.9とともに改善する見通しである。業種別にみると、売上高BSIは『鉱業』『金融・不動産業』を除く5業種で改善、収益BSIは『建設業』『製造業』『サービス業』の3業種で改善する見通しである。

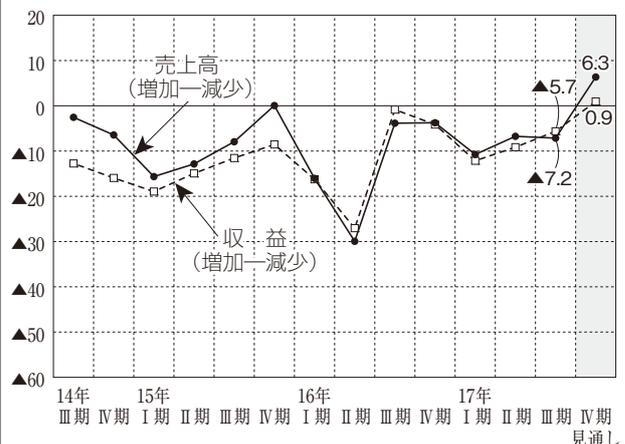
業況判断（BSI）



業況判断指数内訳（BSI）

	2017年 Ⅰ期	2017年 Ⅱ期	2017年 Ⅲ期	2017年 Ⅳ期見通し
鉱業	0.0	0.0	100.0	0.0
建設業	9.1	3.5	7.2	▲3.6
製造業	▲7.5	▲10.3	▲14.2	10.0
卸・小売業	▲17.2	▲14.7	▲16.9	▲10.1
金融・不動産業	▲22.2	▲14.3	0.0	0.0
運輸業	▲13.4	5.9	6.2	6.3
サービス業	▲18.2	10.5	▲25.7	14.3
全産業	▲10.8	▲5.0	▲11.7	2.8

売上高と収益（BSI）



◎所定外労働時間と雇用者数の現状

【今期】 所定外労働時間 BSI は前期比3.7ポイント上昇の+0.5となった。業種別にみると、『建設業』『製造業』『卸・小売業』の3業種で上昇した。

雇用者数の現状 BSI は同2.5ポイント低下の▲34.0となった。業種別にみると、『建設業』『製造業』『運輸業』の3業種で低下した。

【来期】 来期の所定外労働時間 BSI は、今期比3.8ポイント上昇の+4.3となる見通しである。

◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】 資金繰り BSI は、前期比0.3ポイント低下の+3.9となった。業種別にみると、『運輸業』『サービス業』の2業種で悪化した。

借り入れ BSI は、同6.7ポイント低下の▲9.1となった。

【来期】 資金繰り BSI は、今期比6.4ポイント低下の▲2.5と悪化する見通しである。業種別にみると、『鉱業』『運輸業』を除く5業種で悪化する見通しである。

借り入れ BSI は、今期と同水準の▲9.1となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】 実施企業の割合は、前期比2.6ポイント増の38.3%となった。業種別にみると、『金融・不動産業』『運輸業』『サービス業』の3業種で増加した。

実施企業の投資目的をみると、「補修・更新」が60.0%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が20.0%、「合理化・省力化」が7.5%で続く。

【来期】 実施予定企業の割合は、今期比6.5ポイント減の31.8%となる見通しである。業種別にみると、『鉱業』『運輸業』を除く5業種で減少する見通しである。

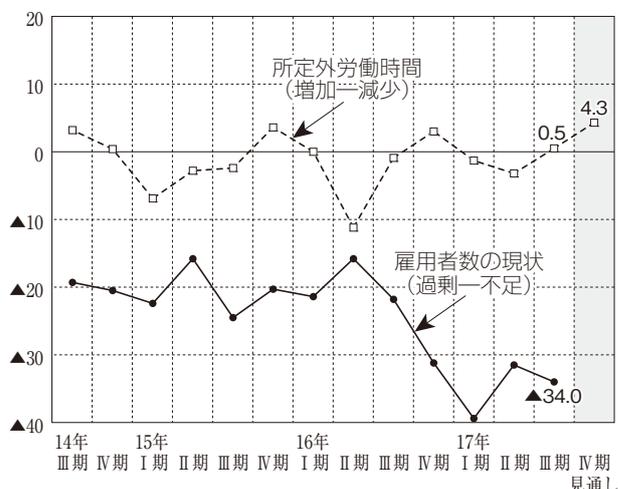
実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が62.1%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」が13.6%、「合理化・省力化」が9.1%で続く。

◎「ラグビーワールドカップ大分開催に伴う影響」について

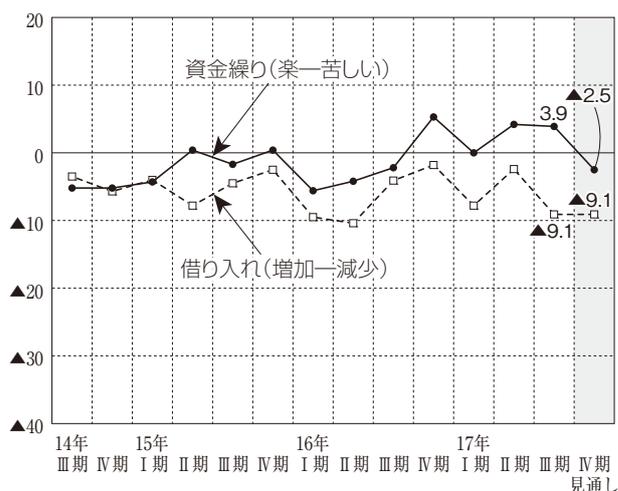
今回の調査で「ラグビーワールドカップ大分開催に伴う影響」について尋ねたところ、「大いにプラスの影響がある」が2.8%、「ややプラスの影響がある」が26.5%、「ややマイナスの影響がある」が0.9%、「大いにマイナスの影響がある」が0.0%、「影響はない」が53.1%、「わからない」が16.6%であった。

プラスの影響がある（「大いにプラスの影響がある」と「ややプラスの影響がある」と回答した企業の割合が高かったのは『サービス業』で、53.0%の企業がプラスの影響があると回答した。

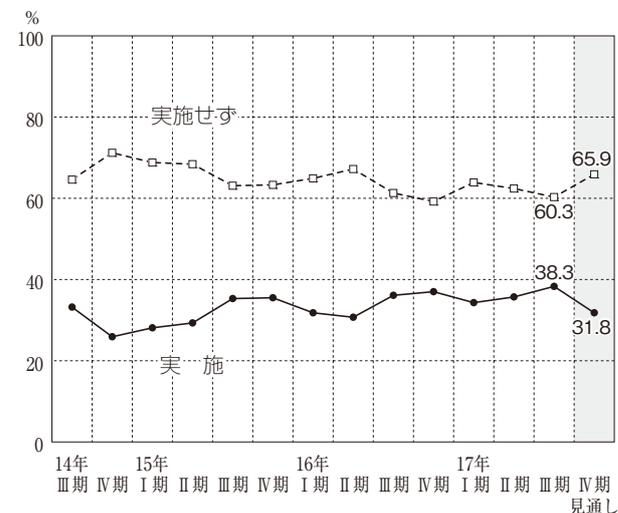
所定外労働時間と雇用者数の現状（BSI）



資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



悪化が続くも改善の見通し

◎業況判断

【今期】業況判断BSIは、前期比3.9ポイント低下の▲14.2と悪化した。

内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比2.6ポイント増の12.9%、「悪くなった」は同6.5ポイント増の27.1%、「変わらない」は同9.1ポイント減の60.0%となった。

業種別にみると、前期よりも改善した業種は「ゴム・革・その他」「機械」「木材・家具」などの4業種であった。一方、悪化した業種は「繊維・衣服」「印刷・出版」「窯業・土石」などの5業種であった。また、「パルプ・紙」については前期と同水準であった。

【来期】業況判断BSIは+10.0と、今期比24.2ポイント上昇し、大幅に改善しプラスに転じる見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比8.5ポイント増の21.4%、「悪くなる」は同15.7ポイント減の11.4%、「変わらない」は同7.1ポイント増の67.1%となる見通しである。

業種別にみると、今期よりも改善見通しが「窯業・土石」「印刷・出版」「鉄・非鉄・金属」などの5業種、悪化見通しが「機械」の1業種のみ、今期と同水準の見通しが4業種となっている。

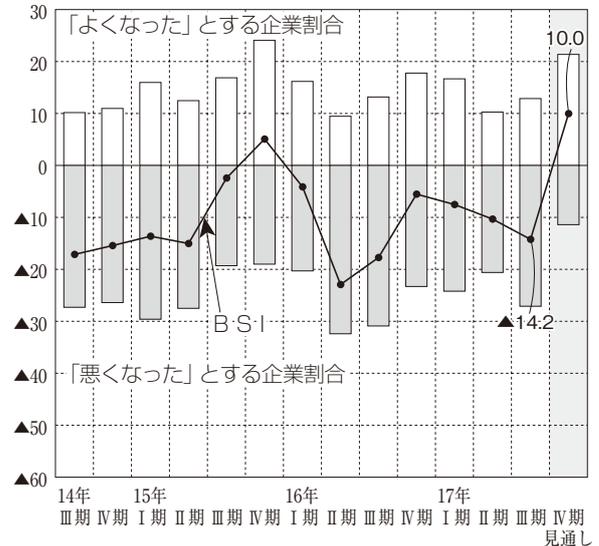
来期の業況判断BSIは5業種で改善の見通しであるほか、マイナス水準は3業種に留まるなど、製造業全体では改善が見込まれている。

◎売上高と生産高

【今期】売上高BSIは前期比3.2ポイント上昇の▲13.2、生産高BSIは同3.8ポイント上昇の▲11.8となり、売上高BSI、生産高BSIともにやや改善した。

【来期】売上高BSIは今期比23.6ポイント上昇の+10.4、生産高BSIは同29.4ポイント上昇の+17.6と、売上高BSI、生産高BSIともに大幅に改善し、プラス水準となる見通しである。

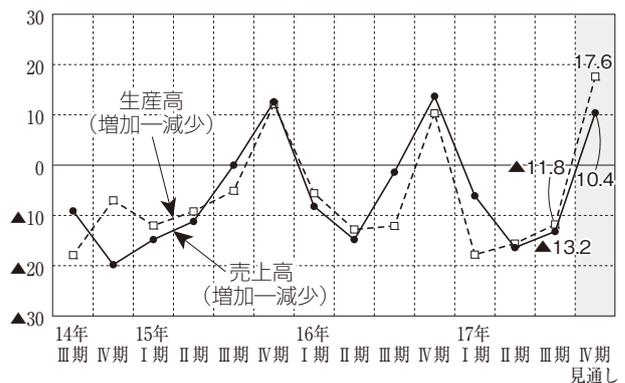
業況判断 (B S I)



業況判断指数内訳 (B S I)

	2017年 I期	2017年 II期	2017年 III期	2017年 IV期見通し
化学・石油	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 33.3
鉄・非鉄・金属	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 9.1	36.4
機 械	0.0	▲ 7.7	18.8	6.2
食 料 品	▲ 9.1	▲ 25.0	▲ 35.7	0.0
繊維・衣服	▲ 50.0	0.0	▲100.0	▲100.0
木材・家具	16.6	▲ 12.5	0.0	0.0
パルプ・紙	0.0	0.0	0.0	0.0
印刷・出版	▲ 42.9	▲ 16.6	▲ 75.0	▲ 25.0
窯業・土石	▲ 25.0	0.0	▲ 20.0	40.0
ゴム・革・その他	40.0	12.5	40.0	80.0
製 造 業	▲ 7.5	▲ 10.3	▲ 14.2	10.0

売上高と生産高 (B S I)



◎収益・原材料仕入価格・製品販売価格

【今期】収益BSIは、前期比9.0ポイント上昇の▲7.4と改善した。原材料仕入価格BSIは同14.9ポイント低下の+17.9、製品販売価格BSIは同7.7ポイント上昇の+1.5となった。

【来期】収益BSIは、今期比4.5ポイント上昇の▲2.9と改善が続く見通しである。原材料仕入価格BSIは、同9.0ポイント上昇の+26.9となる見通しである。製品販売価格BSIは同2.9ポイント低下の▲1.4となる見通しである。

◎受注残高と製品在庫

【今期】受注残高BSIは、前期比10.0ポイント上昇の▲9.0と改善した。製品在庫BSIは同5.0ポイント上昇の▲3.0となった。

【来期】受注残高BSIは、今期比16.5ポイント上昇の+7.5、製品在庫BSIは同3.0ポイント上昇の±0.0となる見通しである。

◎設備投資実施割合

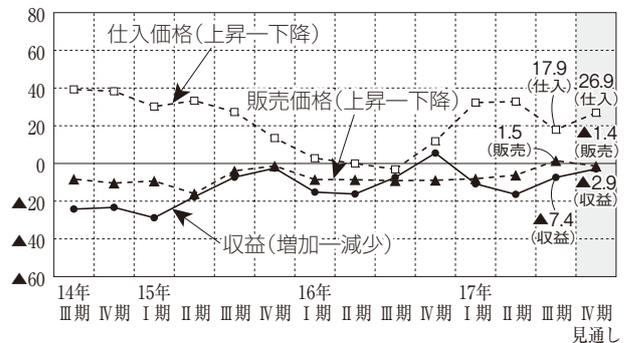
【今期】実施企業の割合は、前期比2.7ポイント減の41.4%となった。投資目的をみると、「補修・更新」が57.1%と最も多くなっている。続いて、「生産能力の拡大・売上増加」21.4%、「合理化・省力化」10.7%となっている。前期と比べ「合理化・省力化」を挙げる割合が増加した。

【来期】実施予定企業の割合は、今期比4.3ポイント減の37.1%となる見通しである。投資目的をみると、「補修・更新」が46.2%と最も多くなっている。続いて、「生産能力の拡大・売上増加」23.1%、「合理化・省力化」19.2%となっている。投資目的上位の順位は今期と同様である。

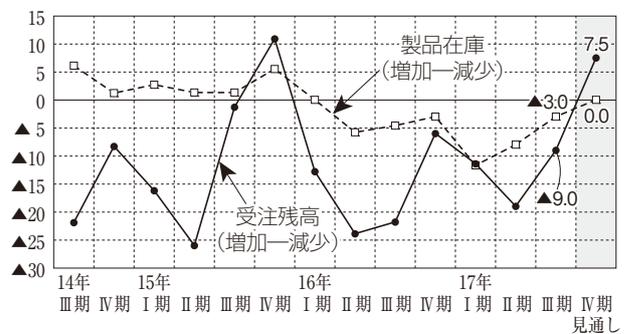
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、最も多いのが、「売上不振」で37.1%となり、前期に引き続き企業の多くが売上の伸び悩みを課題としている。続いて、「人手不足」が21.4%、「人材不足」が15.7%となっている。

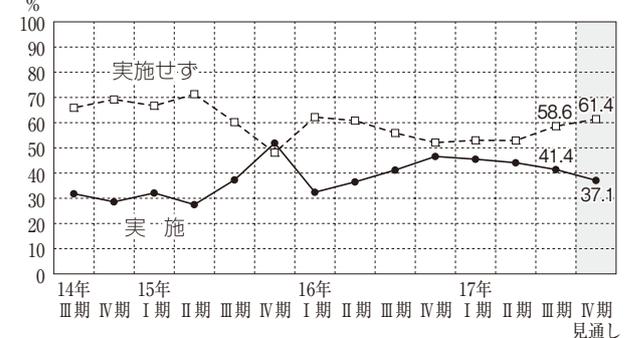
収益・原材料仕入価格・製品販売価格（BSI）



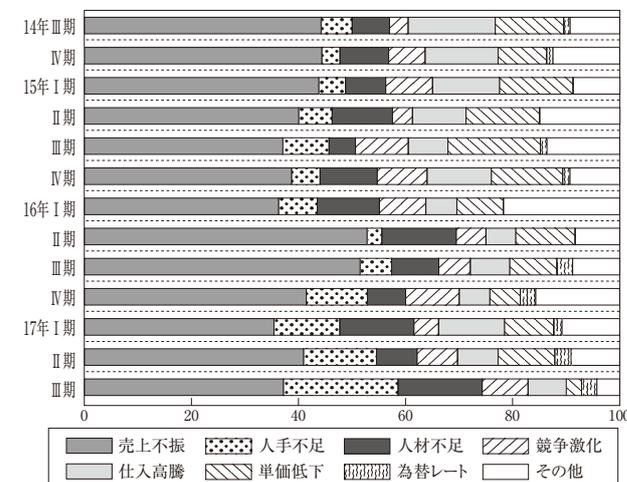
受注残高と製品在庫（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



卸売業は悪化するも、小売業は改善

◎業況判断

【今期】『卸売業』の業況判断BSIは、前期比7.6ポイント低下の▲19.2、『小売業』の業況判断BSIは同2.1ポイント上昇の▲15.1となり、『卸売業』は悪化したが『小売業』は改善した。天候不順で農林水産物の卸売業者の一部で業況の悪化が見られた。一方、猛暑の影響で家電販売店など一部の小売業者が持ち直した。

BSIの内訳をみると、『卸売業』では「よくなった」と回答した企業は前期比11.5ポイント減の7.7%、「悪くなった」は同3.9ポイント減の26.9%、「変わらない」は同15.4ポイント増の65.4%だった。『小売業』では、「よくなった」と回答した企業は前期比9.5ポイント増の15.2%、「悪くなった」は同7.4ポイント増の30.3%、「変わらない」は同16.9ポイント減の54.5%だった。

【来期】『卸売業』の業況判断BSIは、今期比19.2ポイント上昇の±0.0と大幅に改善する見通し。『小売業』の業況判断BSIは、同3.0ポイント低下の▲18.1とやや悪化する見込みとなった。『卸売業』では、天候の安定と九州北部豪雨からの持ち直しで業況の改善が見込まれている。

◎卸売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高BSIは、前期比3.8ポイント上昇の+3.8とやや改善し、商品在庫BSIは、同16.0ポイント低下の▲16.0となった。

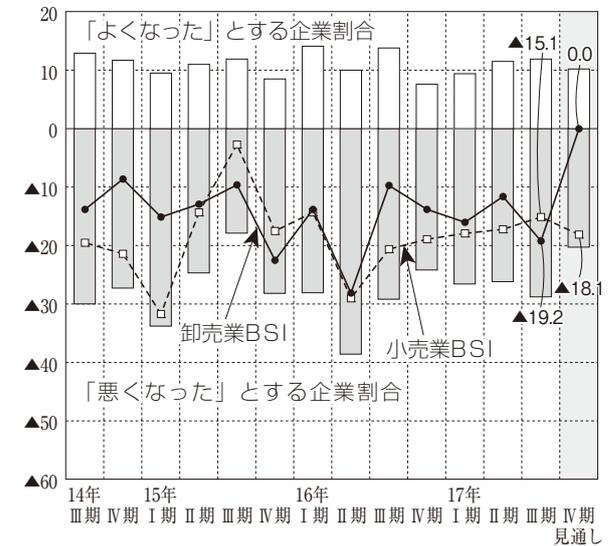
【来期】売上高BSIは、今期比11.6ポイント上昇の+15.4と大幅に改善する見通しである。また、商品在庫BSIは、同16.0ポイント上昇の±0.0となる見通しとなっている。

◎卸売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

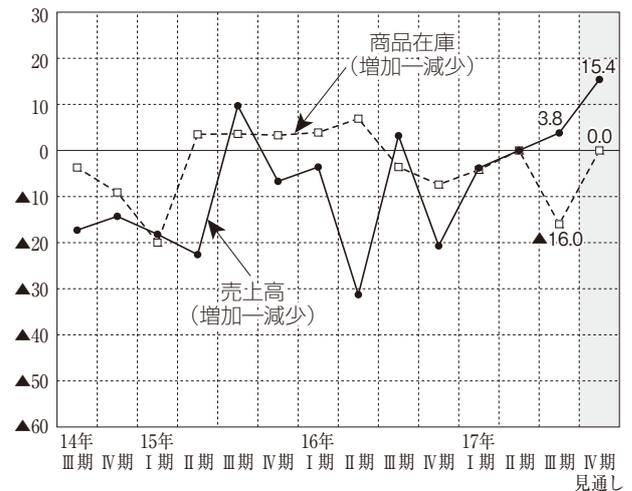
【今期】収益BSIは、前期比4.2ポイント上昇の±0.0と改善した。また、商品仕入価格BSIは同12.0ポイント上昇の+12.0、商品販売価格BSIは同8.0ポイント上昇の+8.0となった。

【来期】収益BSIは、今期と同水準の±0.0となる見通しである。また、商品仕入価格BSIは同4.0ポイント上昇の+16.0、商品販売価格BSIは同8.0ポイント上昇の+16.0となる見通しである。

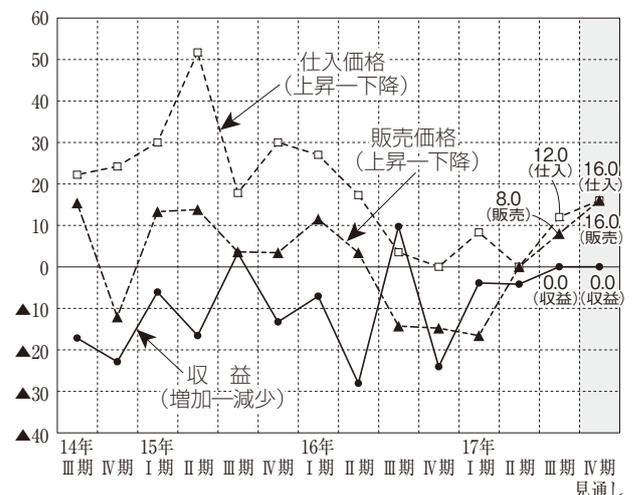
業況判断 (BSI)



〔卸売業〕 売上高と商品在庫 (BSI)



〔卸売業〕 収益・商品仕入価格・商品販売価格 (BSI)



◎小売業：売上高と商品在庫

【今期】売上高 BSI は、前期比11.1ポイント上昇の▲6.0と大幅に改善した。商品在庫 BSI は、同11.7ポイント上昇の±0.0となった。

【来期】売上高 BSI は、今期比3.1ポイント低下の▲9.1と悪化する見通しである。また、商品在庫 BSI は、同12.1ポイント低下の▲12.1となる見通しである。

◎小売業：収益・商品仕入価格・商品販売価格

【今期】収益 BSI は、前期比17.4ポイント上昇の+3.1と大幅に改善した。商品仕入価格 BSI は同23.3ポイント低下の+9.1、商品販売価格 BSI は同20.9ポイント低下の▲9.1となった。

【来期】収益 BSI は、今期比3.1ポイント低下の±0.0と悪化する見通しである。商品仕入価格 BSI は同15.1ポイント上昇の+24.2、商品販売価格 BSI は同15.1ポイント上昇の+6.0となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比2.5ポイント減の23.7%となった。業種別では、『卸売業』が前期比3.9ポイント減の19.2%となり、『小売業』が同1.3ポイント減の27.3%となっている。

設備投資の内容をみると、『卸売業』では「補修・更新」とする割合が最も高い60.0%。次いで「生産能力の拡大・売上増加」と「合理化・省力化」がともに20.0%となっている。一方、『小売業』では「補修・更新」の割合が44.4%、「生産能力の拡大・売上増加」が33.3%、「研究開発」「事業転換・経営多角化」がともに11.1%だった。

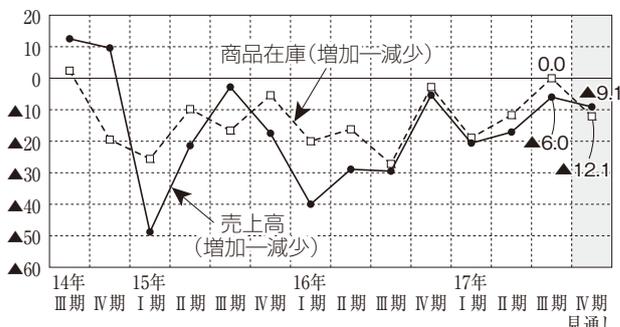
【来期】実施予定企業の割合は、今期比6.8ポイント減の16.9%となる見込みである。業種別では、『卸売業』が同3.8ポイント減の15.4%、『小売業』は同9.1ポイント減の18.2%と、ともに減少する見通しである。

設備投資の内容をみると、『卸売業』は「補修・更新」とする割合が最も高い75.0%。次いで、「その他」が25.0%だった。『小売業』では、「補修・更新」が66.7%と最も高く、「新製品生産」「事業転換・経営多角化」が、ともに16.7%だった。

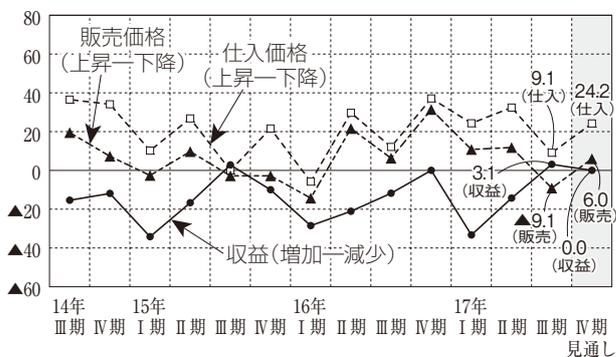
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、「売上不振」が38.6%と最も高く、「競争激化」が26.3%、「人手不足」が14.0%、「原材料仕入価格高騰」「人材不足」がともに7.0%と続いた。

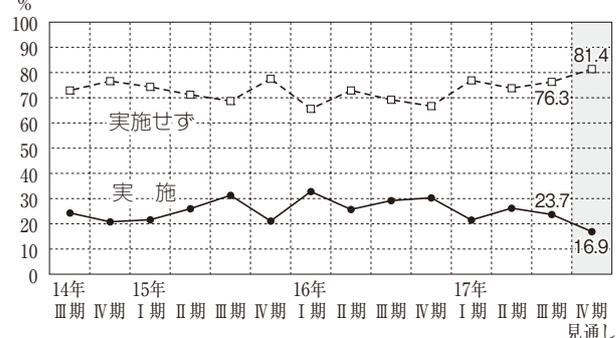
〔小売業〕売上高と商品在庫（BSI）



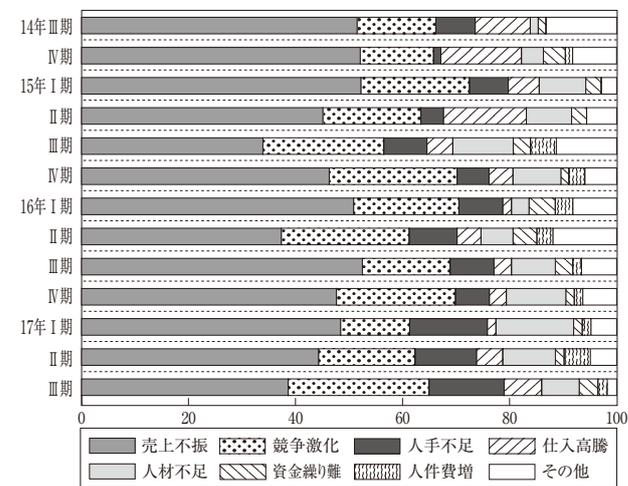
〔小売業〕収益・商品仕入価格・商品販売価格（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



3期連続のプラス水準

◎業況判断

【今期】 業況判断 BSI は、前期比3.7ポイント上昇の+7.2となり、2期ぶりに改善した。前回調査における2017年Ⅲ期の見通し(▲10.3)と比較すると、17.5ポイントの上方修正となり、3期連続でのプラス水準となった。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比0.5ポイント増の14.3%、「悪くなった」は同3.2ポイント減の7.1%、「変わらない」は同2.7ポイント増の78.6%となった。

【来期】 業況判断 BSI は、今期比10.8ポイント低下の▲3.6と、悪化する見通しである。

BSIの内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比3.6ポイント減の10.7%、「悪くなる」は同7.2ポイント増の14.3%、「変わらない」は同3.6ポイント減の75.0%となる見通しである。

業況判断 BSI は、今期まで3期連続でプラス水準を維持している。住宅着工は弱含んでいるものの、公共工事が持ち直していることなどが影響しているとみられる。一方で来期はマイナス水準に悪化する見通しであり、先行きについては慎重な見方をする企業が多い。

◎売上高と収益

【今期】 売上高 BSI は前期比3.5ポイント低下の±0.0となった。収益 BSI は同2.7ポイント上昇の▲7.7と改善した。

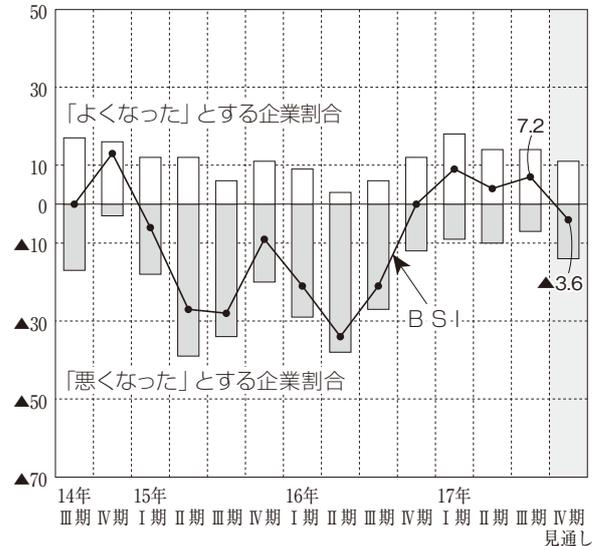
【来期】 売上高 BSI は、今期比7.7ポイント上昇の+7.7、収益 BSI は同19.3ポイント上昇の+11.6と、ともに改善する見通しである。

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

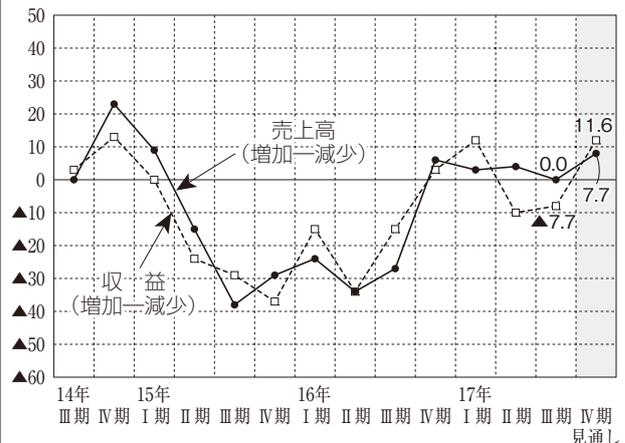
【今期】 所定外労働時間 BSI は、前期比14.1ポイント上昇の+7.2となった。また、雇用者数の現状 BSI は、同4.6ポイント低下の▲35.7となり、人手不足感は高止まりしている。

【来期】 所定外労働時間 BSI は、今期比3.6ポイント低下の+3.6となる見通しである。

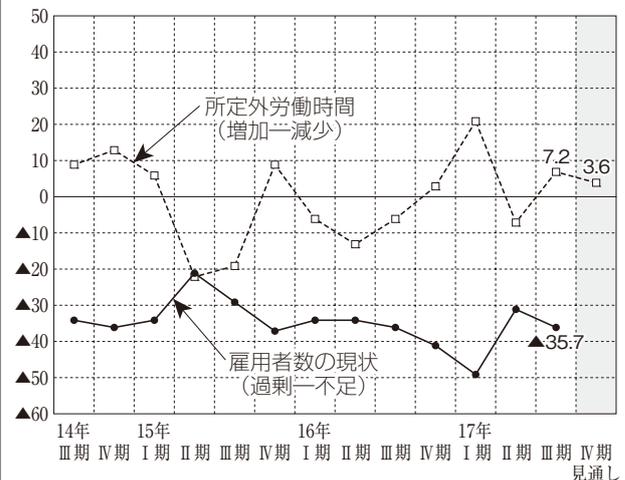
業況判断 (B S I)



売上高と収益 (B S I)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (B S I)



◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】資金繰りBSIは、前期比4.0ポイント上昇の+17.8と改善した。また、借り入れBSIは、同11.5ポイント低下の▲22.2となった。

【来期】資金繰りBSIは、今期比14.3ポイント低下の+3.5と悪化する見通しである。また、借り入れBSIは、同7.4ポイント上昇の▲14.8となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】実施企業の割合は、前期比2.4ポイント減の28.6%となった。

実施企業の投資目的をみると、「補修・更新」が62.5%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」「新製品生産」「福利厚生」がそれぞれ12.5%となっている。

【来期】実施予定企業の割合は、今期比7.2ポイント減の21.4%となる見通しである。

実施予定企業の投資目的をみると、「補修・更新」が66.7%と最も多く、「生産能力の拡大・売上増加」「新製品生産」がともに16.7%となっている。

◎経営上の問題点

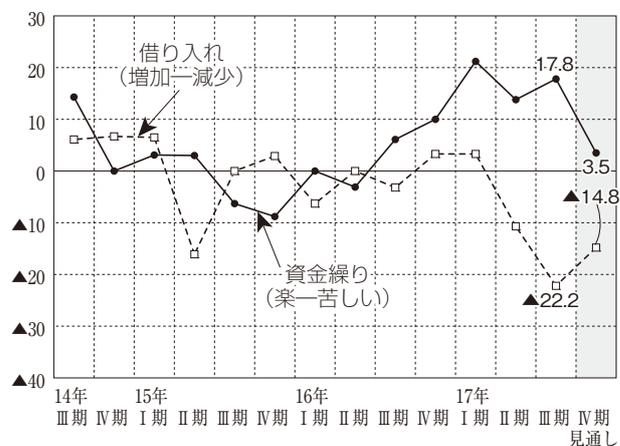
経営上の問題点については、「人手不足」が22.2%と最も多く、次いで「売上不振」「競争激化」「人材不足」がそれぞれ18.5%、「販売受注単価低下」が11.1%、「原材料仕入価格高騰」が7.4%、「人件費増」が3.7%となった。

建設業では、「売上不振」と回答する企業の割合が16年Ⅱ期には半数を占めたが、その後は低下し、他の業種と比べても低くなっている。また、「人手不足」と「人材不足」の合計は40.7%と、「売上不振」の18.5%を大きく上回っており、売上よりも人手や人材の確保をより重要な課題と感じる企業が多い。

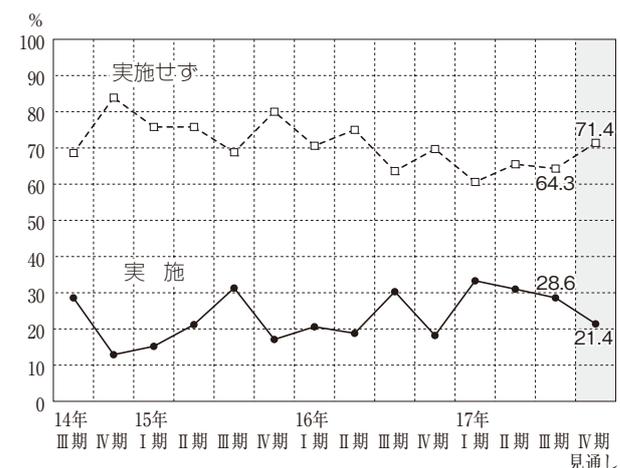
公共工事の動向について、西日本建設業保証の4月から6月までの保証取扱動向（請負金額）で見ると、前年同期比62.6%増となった。7月単月では、前年同月比3.8%増であった。

また、住宅投資の動向について、4月から6月までの新設住宅着工戸数で見ると、前年同期と比べて持家と分譲住宅（含むマンション）が増加する一方、貸家は減少し、全体では前年同期比15.5%減の1,686戸となった。7月単月の着工戸数は、前年同月比1.6%増の628戸であった。

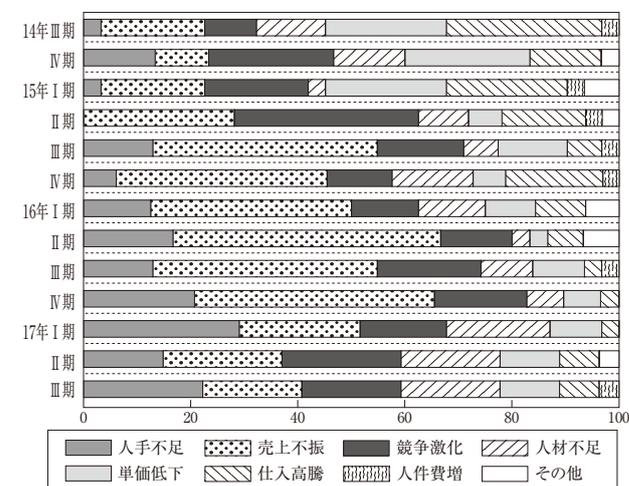
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



2期ぶりに悪化

◎業況判断

【今期】 業況判断 BSI は、前期比36.2ポイント低下の▲25.7と2期ぶりに悪化した。前回調査における2017年Ⅲ期の見通し(+13.2)と比較すると、38.9ポイントの下方修正となった。

BSIの内訳をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比12.7ポイント減の5.7%、「悪くなった」は同23.5ポイント増の31.4%、「変わらない」は同10.8ポイント減の62.9%と、「悪くなった」と回答する企業が大幅に増加した。

サービス業のうち観光関連の18社をみると、「よくなった」と回答した企業は前期比35.6ポイント減の5.6%、「悪くなった」と回答した企業は同27.8ポイント増の27.8%となった。県内の観光動向はゴールデンウィークの県内観光客数が例年並みに回復するなど、持ち直しの動きを強めていたが、7月に発生した九州北部豪雨の影響から「悪くなった」と回答する企業が大幅に増加したものとみられる。観光関連以外(17社)では、「よくなった」と回答した企業が5.9%、「悪くなった」と回答した企業が35.3%となった。

【来期】 来期の業況判断 BSI は、今期比40.0ポイント上昇の+14.3と大幅に改善する見通しである。

内訳をみると、「よくなる」と回答した企業は今期比17.2ポイント増の22.9%、「悪くなる」は今期比22.8ポイント減の8.6%、「変わらない」は今期比5.7ポイント増の68.6%となる見通しである。

◎売上高と収益

【今期】 売上高 BSI は前期比25.2ポイント低下の▲20.0、収益 BSI は同19.8ポイント低下の▲17.1となり、ともに大幅に低下した。

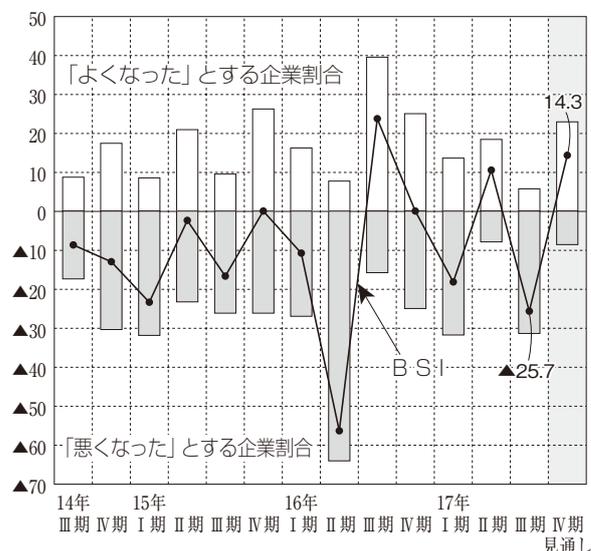
【来期】 来期の売上高 BSI は今期比28.6ポイント上昇の+8.6、収益 BSI は同22.8ポイント上昇の+5.7と、ともに改善する見通しである。

◎所定外労働時間と雇用者数の現状

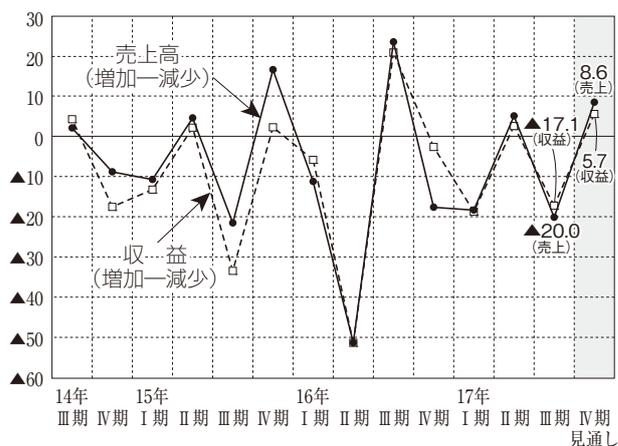
【今期】 所定外労働時間 BSI は、前期比27.6ポイント低下の▲11.8となった。また、雇用者数の現状 BSI は、同3.2ポイント上昇の▲44.1となった。

【来期】 所定外労働時間 BSI は、今期比11.8ポイント上昇の±0.0となる見通しである。

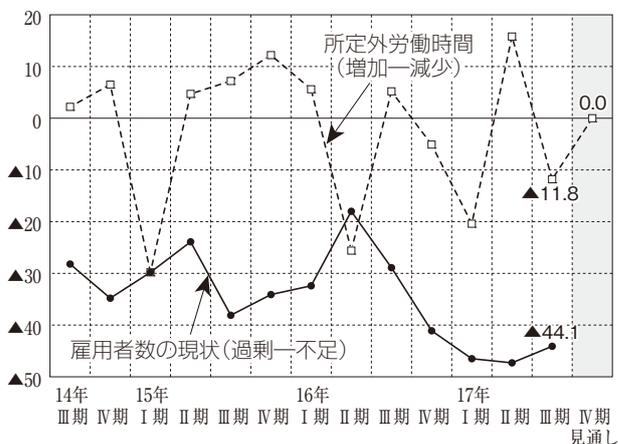
業況判断 (BSI)



売上高と収益 (BSI)



所定外労働時間と雇用者数の現状 (BSI)



◎資金繰りと金融機関からの借り入れ

【今期】 資金繰り BSI は、前期比7.7ポイント低下の+3.1となった。借り入れ BSI は同7.7ポイント低下の▲13.4となった。

【来期】 資金繰り BSI は、今期比3.1ポイント低下の±0.0、借り入れ BSI は同3.3ポイント低下の▲16.7となる見通しである。

◎設備投資実施割合

【今期】 実施企業の割合は、前期比17.9ポイント増の60.0%であった。

投資目的別にみると、「補修・更新」が65.0%と最も多く、次いで「生産能力の拡大・売上増加」が15.0%、「合理化・省力化」が10.0%、「研究開発」「その他」がともに5.0%となっている。

【来期】 実施予定企業の割合は、今期比14.3ポイント減の45.7%となる見通しである。

投資目的別にみると、「補修・更新」が73.3%と最も多く、次いで「その他」が13.3%、「合理化・省力化」「研究開発」がともに6.7%となっている。

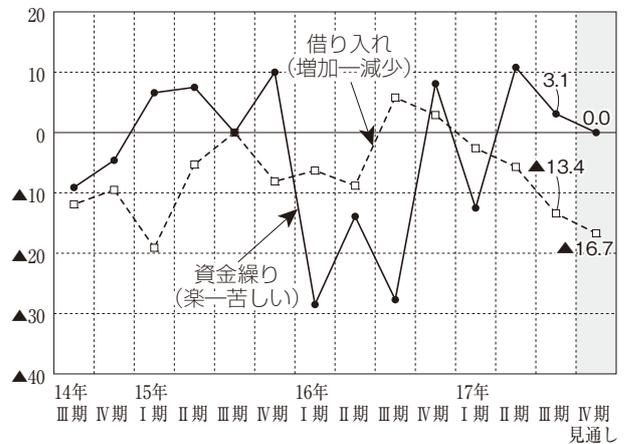
◎経営上の問題点

経営上の問題点については、「売上不振」が35.3%と最も多かった。次いで「人手不足」が26.5%、「人材不足」が11.8%、「販売受注単価低下」「競争激化」がともに8.8%、「人件費増」「設備過多」「その他」がそれぞれ2.9%となった。前回調査と比べると、「売上不振」の割合が11.0ポイント上昇した。

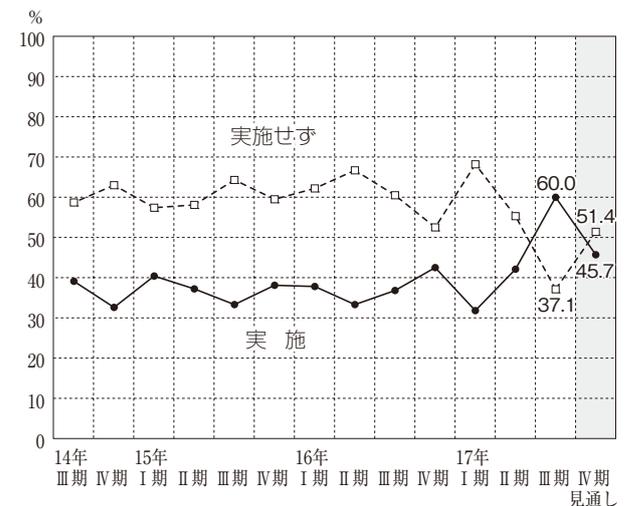
県内の観光動向について、大分県の観光統計調査の4月から6月までの宿泊者数をみると、前年同期比42.5%増と大幅に増加した。昨年4月に発生した熊本地震の反動増による影響が大きい。熊本地震の影響を受ける前の前々年の同期と比べても7.5%増となっており、持ち直しの動きを強めている。宿泊者数の内訳は、国内客が前年同期比31.1%増、外国人客は同144.0%増となった。

なお、7月単月では、宿泊者数は前年同月比1.4%減と5ヵ月ぶりの減少となった。内訳をみると、外国人客は同63.0%増と好調を維持しているものの、九州北部豪雨の影響により国内客が同8.3%減と落ち込み、全体では前年を下回った。

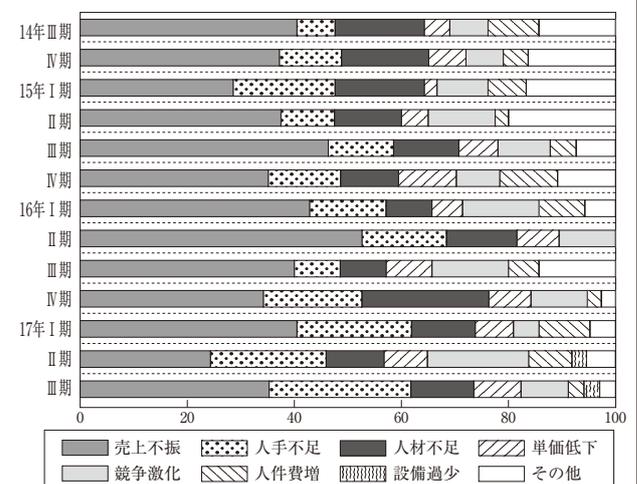
資金繰りと金融機関からの借り入れ（BSI）



設備投資実施割合



経営上の問題点 (%)



BSIとは

BSIとは“Business Survey Index”の略

企業経営者の業況に関する判断や景気見通しを“よくなる・よくなった”、“変わらない”、“悪くなる・悪くなった”という3つの形式で回答を求め、これを数値であらわしたものである。

BSIは次の数式で求められる。

①[よくなる]+[変わらない]+[悪くなる]=100%とする

②[変わらない]の回答分を除く

③ $BSI = [よくなる] - [悪くなる]$

BSIが前期を上回れば景気は改善、前期を下回れば悪化という見方をする。

調査の概要

当調査は、大銀経済経営研究所、大分信用金庫、大分県産業創造機構の三者合同によるアンケート調査である。

◎調査時点 平成29年8月20日

◎調査の内容

- ・自社の景況の実績と見通し
- ・売上高と収益の実績と見通し
- ・設備投資実施割合
- ・経営上の問題点など

◎調査対象

- ・県内に本社または出先事業所を有する企業460社

◎回答企業数 214社

・回答率 46.5%

・規模別割合

資本金1千万円未満・個人	6.5%
資本金1千万円～1億円未満	65.9%
資本金1億円以上	15.0%
無回答	12.6%